

# 新入生にすすめる 50冊の本

2019

[表紙写真タイトル：春のとおりみち]

「普段写真を撮りに色んなところへ行っています。あまりこの坂にはいかないのですが、桜の写真を撮る目的で行ってみるととても綺麗な風景が……。ということで撮ってみるといい写真が撮れました」  
(福山大学「桜のフォトコンテスト」2018年度最優秀作品)

写真提供： 濱田 侑弥 (経済学部税務会計学科3年)

撮影場所：29号館前の坂道にて

## 読書で、自己を確立する

現在、読書についての関心は高まっています。それは、読書体験が日常生活から遠ざかっているからです。実際、小中高の生徒の中で高校生は本を読まない割合が最も高いことが知られています。

しかし、現在では、読書と学力の関係、読書と長寿の関係などが盛んに調査され、それらの間に高い相関関係があることが示されています。読書が、生きて行く上で最も大事な自己を確立させるからでしょう。不確実性の現代社会において、自分の頭で考え、判断し、行動できる力は何ものにも代えがたい宝物です。

そして、大学での学びの中核は、本を読み、その内容について独自の評価を下し、それを踏まえて自らの考えを産み出すことにあります。本学では、1年次の「日本語表現法」において、オンラインの学習支援システム cerezo 上で「注文の多い図書館」という読書の独習プログラムを組み入れています。そこでは、読んだ本についての書評を書くことができます。その作品の一部は、『新入生にすすめる 50 冊の本』に掲載され、新入生への読書のすすめとなります。

皆さんがこのプログラムにおいて一生の宝物を獲得することを祈ります。

福山大学附属図書館  
館長 青木 美保



## 人生の道しるべ

- バレー部のキャプテンが突然部活をやめ、  
周りにいる人に何らかの影響を与える。 大隈 葵  
『桐島、部活やめるってよ』朝井リョウ著 ……1
- 生きていく中で大事な事を教えてもらった気がします。 大友遥香  
『カラフル』森絵都著 ……2
- まちで拾った善意あふれる感動の実話 20 編 角 陽和  
『80 点コロッケ—涙があふれて心が温かくなる話』  
ニッポン放送『上柳昌彦のお早う Good Day!』編 ……3
- デキる学生への第一歩 高橋誠之進  
『今やる人になる 40 の習慣』林修著 ……4
- 暗示をかけて自分を動かそう 高橋佳美  
『自分を「やる気」にさせる！最強の心理テクニック』内籐誼人著  
……5
- 震災や災害が身近に感じられる今だからこそ、  
読んでもらいたい 1 冊。 峯松春菜  
『神の子どもたちはみな踊る』村上春樹著 ……6

「誰かに、何か、ひどいことをした」  
そんな経験が、あなたにはありませんか？ 村井宏枝  
『青くて痛くて脆い』住野よる著 ……7



## 学びの道しるべ

あなたは、なくなってしまうかもしれない言葉の意味を  
知ってみたいと思いませんか？ 市川明星  
『なくなりそうな世界のことば』吉岡乾著，西淑イラスト ……8

図書館に相談すれば少し解決するかもしれません 大谷恭子  
『つながる図書館』猪谷千香著 ……9

センスはすでにあなたのなかにあるんだって  
よんでごらんなさい 片桐重和  
『センスは知識からはじまる』水野学著 ……10

負の歴史から学ぶということ 喜多村侑佳  
『世界史を変えた13の病』ジェニファー・ライト著 ……11

あなたの身近にも「ゾンビ」がいます 桑田成年  
『ゾンビ・パラサイト』小澤祥司著 ……12

- 日本の有名な川で起きる不審な事件の真相とは！？**  
**日本史と地理の勉強にもなる歴史ミステリー。** 住本侑希  
『歴女美人探偵アルキメデス—大河伝説殺人紀行』 鯨統一郎著  
……………13
- 2000年以上に続くこの国で私達は何者なのか、**  
**日本とは何なのか、この本が語る真実とは！！** 渡川 舜  
『日本国紀』 百田尚樹著  
……………14
- 薬剤師の使命、今後の在り方がこの一冊で分かる！** 戸花啓太  
『目覚めよ、薬剤師たち！—地域医療を支える薬剤師の使命』  
鶴蒔靖夫著  
……………15
- 架空の日本でメディアの規制と戦う** 野田日向  
『図書館戦争』 有川浩著  
……………16
- 迷いながら生きてきた著者の体験をもとに、**  
**大学で学ぶことの意義を探ることができる本** 早川達二  
『大学でいかに学ぶか』 増田四郎著  
……………17
- 科学ってこんな面白かったっけ？！** 藤井香苗  
『世界一深い100のQ  
—いかなる状況でも本質をつかむ思考力養成講座』  
ロジェ・ゲスネリ[ほか]著  
……………18
- 君たちは民主主義を守れるか？** 松田文子  
『「脱」戦後のすすめ』 佐伯啓思著  
……………19

今まで出会った人すべてが今のあなたを作っている！ 目黒海結  
『オール1の落ちこぼれ、教師になる』宮本延春著 ……20

あなたもしくじっていませんか？

「気の利いた言葉」「敬語」…

これらもしくじりの原因になっているかも 山本美怜  
『会話のしくじり』梶原しげる著 ……21



---

## 科学の道しるべ

---

においのすべてが分かる！！ 井上昌也  
『「香り」の科学—匂いの正体からその効能まで』平山令明著 ……22

市の職員が何も知識なく水族館で働き、  
周りの人に助けられながら成長していく恋愛小説 田中佑季  
『水族館ガール』木宮条太郎著 ……23

自分の気持ちを上機嫌にする方法、知っていますか？ 辻圭位子  
『不機嫌は罪である』斉藤孝著 ……24

遠いようで身近なもの 益 七瀬  
『骨の学校—ばくらの骨格標本の作り方』盛口満・安田守著 ……25

夢を現実に、科学の力でそれが叶います！ 丸谷美貴  
『透明人間になる方法—スーパーテクノロジーに挑む』白石拓著  
……26

悩みと幸せに生きることとの関係とは？ 山崎理央  
『顔ニモマケズ』水野敬也著 ……27

絶滅した理由をその生き物に聞こう 吉津悠子  
『わけあって絶滅しました。』丸山貴史著 ……28



## 文学の道しるべ

あの頃の思い出はどこに行ってしまったのでしょうか 池原正恒  
『思い出あずかります』吉野万理子著 ……29

平凡であった主人公・ダレンを待ち受ける壮大な運命とは 川添舞子  
『ダレン・シャン—奇怪なサーカス』ダレン・シャン著 ……30

ハラハラドキドキするストーリーを探していますか？  
それなら、この本がぴったりです！ KIKO LOPES GABRIELA KAORI  
『あなたをずっとあいしてる』宮西たつや作絵 ……31

闇の帝王を倒すべく立ち上がった  
ハリーと仲間たちの愛と勇気の物語。 栗原英輔  
『ハリー・ポッターと謎のプリンス』J.K.ローリング著 ……32

ゆるされている。世界と調和している。  
それがどんなに素晴らしいことか。 桑田一希  
『羊と鋼の森』宮下奈都著 ……33



笑いあり感動あり、夫婦の愛が伝わる物語。  
『大恋愛—僕を忘れる君と』大石静・高橋和昭著 ……34

キケン：してはいけないこと、したくないこと。  
そんな概念なんてこの本を読めばバカバカしくなる。  
『キケン—成南電気工科大学機械制御研究部』有川浩著 ……35

町の安全を守るヒーロー！  
その名も、「三匹のおっさん」！！  
『三匹のおっさん』有川浩著 ……36

とてつもなく強く、気の強い村上水軍の娘の話。  
獅子奮迅の活躍に注目！  
『村上海賊の娘』和田竜著 ……37

珈琲店タレーランに通う主人公アオヤマとバリスタの周りで起こる  
摩訶不思議な謎を次々と解いていく、謎解きストーリー 濱本嘉人  
『珈琲店タレーランの事件簿—また会えたなら、あなたの淹れた珈琲を』  
岡崎琢磨著 ……38

奇妙、だけれども、ほんのり心温まる話  
『暗いところで待ち合わせ』乙一著 ……39

辛く苦しい出来事に直面した時、この物語の主人公を心に抱くと、  
励まされるかもしれません。  
『老人と海』アーネスト・ヘミングウェイ著 ……40

あなたの精神は宇宙的恐怖に支配される

『ラヴクラフト全集 2』 H.P.ラヴクラフト著

横山雅治

……41



---

## こころの道しるべ

---

不思議な共同台所「すみっごはん」で

あなたも心と身体を暖かくしてみませんか？

『東京すみっごはん』 成田名璃子著

岩田櫻子

……42

ドラえもん好きがオススメする

ドラえもんについて考えさせられる本

『新訳「ドラえもん」』藤子 F 不二雄漫画・原作，佐々木宏文

大森優也

……43

本が読みたい！続きが気になる！

現代人必見の楽しく学べるストーリー

『ツレがうつになりまして。』 細川貂々著

京樂方志

……44

苦しい時に読むと明るい方へと目を向けられる一冊

『キッチン』 吉本ばなな著

白名真子

……45

三兄弟の苦悩、葛藤に対してどのように戦っていくのか

騙し騙されの詐欺奇譚

『流星の絆』 東野圭吾著

新名内弓貴

……46

- 物事を数字で判断する「大人」に疑問を抱く主人公と  
小さな星から来た王子さまの物語 原 彩乃  
『Le Petit Prince 星の王子さま』サン=テグジュペリ作 ……47
- 生きるために消してしまった「かけがえのないもの」の物語。  
深坂日向子  
『世界から猫が消えたなら』川村元気著 ……48
- 家族や恩師、友達の大切さを  
改めて感じるができるころ温まる本です 福本春花  
『手のひらの音符』藤岡陽子著 ……49
- 人に心を開くことをためらうようになっていませんか？  
そんな時に自分の考え方や行動を変えさせてくれた本がこれです  
脇谷梨加  
『君の臍臓をたべたい』住野よる著 ……50

(備考：所属は平成 31 年 3 月現在です。)



バレー部のキャプテンが突然部活をやめ、  
周りにいる人に何らかの影響を与える。

『桐島、部活やめるってよ』  
朝井リョウ 著（集英社文庫）

バレー部のエースであり、キャプテンの桐島が部活をやめた。そんな中、同じバレー部のメンバーや、全く違う部活の人たちそれぞれに様々な問題が降りかかります。

それぞれの章でメインとなる人物は困難を抱えつつも普段と同じ日常を送ります。しかし心の内では不安を抱えながらこれで大丈夫なのかどうしたらいいのかと思っています。このような心情になりながらも、それぞれの登場人物がその困難を乗り越えようとします。桐島がいなくなった事に、部活のメンバーは特に不安を感じ、桐島はキャプテンでもあったので、メンバーの一人が急にキャプテン代理を頼まれました。この人が1番影響を受けた人物かもしれません。

不安に押しつぶされそうになりながらも諦めず現実に向かい向かう。この人と同じように別の人たちも立ち向かっていきます。

大隈 葵（人間文化学科1年）



生きていく中で大事な事を教えてもらった気がします。

## 『カラフル』

森 絵都 著（文春文庫）

私は、何の気なしにこういったジャンルの本が読みたくてこの本を手にししました。ただそれだけでしたが、私が思っていた以上の良作だったので、ここで紹介してみようと思います。

物語は、死んだはずの魂が、何処か暗いところに流されている所から始まります。そこに突如天使が行く手を遮ってこう言います「おめでとうございます、抽選に当たりました!」と。天使曰く、輪廻のサイクルに戻るにはホームステイ先の真の身体を通して過ごし、その中で自分の罪を思い出さなくてはならない。天使プラプラとともに下界に降りてホームステイを始め、順風満帆に事を遂げられるかのように思われましたが、真の過去と取り巻く環境は想像を絶するものでした。真本人への複雑な感情を抱きつつ、真自身の辛い過去を紐解いていくのですが…。

私は、天使プラプラが主人公に言った言葉に感銘を受けました。ああ、もっと楽に生きてもいいんだな、と。この本は、私の生き方に少し影響を与えてくれた本です。ぜひご一読を。

大友 遥香（人間文化学科 1年）



## まちで拾った善意あふれる感動の実話 20 編

### 『80 点コロッケ—涙があふれて心が温くなる話』 ニッポン放送『上柳昌彦のお早う Good Day!』編（扶桑社）

ニッポン放送の「上柳昌彦のお早う GoodDay!」から生まれたグッとくる話 20 編を集めた本。表紙のコロッケを手渡す装丁は、温かいものを手渡すリレーのようです。

表題作「80 点コロッケ」は、精肉店の店主が母校の高校生にテストで 80 点以上取ればコロッケを 2 つあげるというサービス。生徒が店に寄るのはコロッケをもらうためだけでなく、店主の笑顔に触れたいためだとか。そのほかにも、瀬戸内海の小島で農家を営みながら本土と架け橋をする救急船のかじを取る人の話「海上の救急船」。高齢の方のために郵便物がなくても毎日声をかける郵便屋さんのお話「郵便屋さんの勇気」など心の通い合う温かい話があります。

普通の人がある普通の生活の中でできることを頑張っている話。今もある本当の話。今の自分には何ができるのでしょうか。心が疲れている人に、まだまだ日本もすてたもんじゃないと思わせてくれる一冊です。

角 陽和（薬学科 1 年）



## デキる学生への第一歩

### 『今やる人になる 40 の習慣』

林 修 著（宝島 sugoi 文庫）

皆さんはやろうと思った時にすぐ行動に起こせますか？親に「勉強なさい！」とか言われた時に、分かっているけど行動に移せる人は、少ないと思います。

この本の著者は皆さんよく知っていると思います。林修さんです。テレビでもよくいろんなことを話されています。

私がこの本を読んで心に刺さったのは「時間を意識することでやらなければならないことが出来るようになる」です。例えば、YouTube を 1 日 2 時間ぐらい見ているとします。しかし明日課題を提出しなくてはならないのに、ついつい動画を見てしまいます。そして、課題を出せずにやらなかった理由を探します。“あの人もやってないからやらなくていいや”などと理由をつけます。動画を見ていなければ終わっていたと思います。

時間は有限と言うことを意識することですぐ出来るようになると思います。他にも色々ためになることが書いてあるので良かったら読んでみてください！

高橋 誠之進（人間文化学科 1 年）



## 暗示をかけて自分を動かそう

### 『自分を「やる気」にさせる！最強の心理テクニック』

内藤 誼人 著（ぱる出版）

あなたは「やる気が出ない」、「このままではいけないけど、どうしたらやる気が出るのだろうか？」と、思った事は有りませんか？

今は新しい人生に一步踏み出してやる気満々な時だと思います。この本の中にあなたのやる気にもっと大きな火を付けるヒントが有るかもしれませんよ。

自分自身に暗示をかける・ご褒美をあげる・映像としてできると念じる・取り敢えず動く…姿勢を正す。顎や肩を上げるだけでも、テンションが上がりやる気が出てくるのかもしれませんが。この本は「やる気」を出す為のアドバイスを其々短く書いてある本です。あなたのやる気の出るスイッチはどこに有るのでしょうか。

社会に出る一步前で色々なことを学び、挑戦できる大学生としての大切な時を、今だからこそ出来る何かに。あなたの心に“やる気のガソリン”を注ぎ込んで大学生活を有意義な時間にしてください。

高橋 佳美（職員）





震災や災害が身近に感じられる今だからこそ、  
読んでもらいたい 1 冊。

## 『神の子どもたちはみな踊る』

村上春樹 著（新潮社）

この本は「地震のあと」をテーマとした短編集であり、全ての物語に「震災と少しだけ関係のある人物が主人公」という共通点があります。その物語の一つ、「かえるくん、東京を救う」の主人公・片桐は、神戸に大地震が起きた翌月突如現れた巨大なかえる、かえるくんと地下に潜り、地底に住むみみずくと闘って、東京での地震を阻止するという試練に立ち向かいます。激闘の末、片桐とかえるくんは地震を阻止することに成功しますが、かえるくんはみみずくんと闘いの中で受けた被害によって死んでしまいます。かえるくんの死の描写のあまりの残酷さに絶望を覚えながらも最後まで目が離せない作品となっています。

震災や災害が身近に感じられる今だからこそ、読んでもらいたい 1 冊です。

峯松 春菜（人間文化学科 1 年）



「誰かに、何か、ひどいことをした」  
そんな経験が、あなたにはありませんか？

『青くて痛くて脆い』  
住野よる 著（角川書店）

「四年間でなりたい自分になる」きっと皆そんな思いを胸に秘め、新しい大学生活をスタートさせるのだと思います。

この物語の主人公も、「人に不用意に近づきすぎない」、「誰かの意見に反する意見はできるだけ口に出さない」、そうすることで誰かを不快にさせることもなく、不快になった誰かから傷つけられないと考えました。

田端と秋吉の作ったサークル「モアイ」はいつの間にか就活のための巨大サークルに変容します。田端は、理想と離れて行くモアイを、秋吉を変えようとし、ある手段を…。

「取り返しがつかなくなってしまう」

「いったい何をしたかったのか」

社会人となった田端は、何を思い、何を語るのでしょうか。傷つくのは怖いし、誰も傷つきたくないと思っているはず。だけど、必要な時には逃げないできちんと傷つくことも大切なのではないのでしょうか。

村井 宏枝（人間科学研究科 2年）



あなたは、なくなってしまうかもしれない言葉の意味を知ってみたいと思いませんか？

**『なくなりそうな世界のことば』**  
吉岡乾 著，西淑 イラスト（創元社）

いま、世界の中で無くなろうとしている言葉があります。

そんな、言葉の意味を知ってみませんか？この本では、そんな無くなろうとしている言葉の意味を知ることによって、その言葉が使われている地域の生活習慣や文化の背景を、言葉の意味から見る事が出来ます。

その言葉を使って世界をどんなふうに愛したか、どんなふうに世界を見ていたかを知りませんか？

是非ご一読ください。

市川 明星（人間文化学科 1 年）



図書館に相談すれば少し解決するかもしれません

## 『つながる図書館』

猪谷千香著（ちくま新書）

最近、図書館が変化しています。TSUTAYA を経営するカルチュア・コンビニエンス・クラブを指定管理者としたことで話題になった佐賀県の武雄市図書館はご存知でしょうか。他にも、お気に入りのぬいぐるみを図書館にお泊まりさせる「ぬいぐるみのお泊まり会」がある図書館や、「恋人に出会える(かもしれない)図書館」まで現れています。昨年(2018年)、マツコ・デラックスさんが出演していたNHKの番組「AIに聞いてみた」では、「健康寿命を延ばすためには、運動よりも読書が大事」とAIが解析していました。今、図書館から街づくりが行なわれています。図書館ができるまでの道のりや運営に、住民、スタッフの思いがあり、ドラマが見られます。そして、それぞれの思いが、どの図書館でも反映されていて、そんな図書館をみて、また新しい図書館が生まれています。

ここには、どんな図書館が欲しいでしょうか。図書館に出かけてみませんか。

大谷 恭子（職員）



センスはすでにあなたのなかにあるんだって  
よんでごらんさい

## 『センスは知識からはじまる』

水野学 著（朝日新聞出版）

唐突ですが、「あなたは、センスがいいほうだと思いますか。」「センスのいい人に憧れたことはありませんか。」「センスの良し悪しって何で決まるのか考えたことはありませんか。」

考えたことがある人もない人も、あなたのこれからの人生において、「センス」は、あつて困るものではないし、そしてそれは、どうせなら、他人から「センスいいね」って言われるほうがいいでしょう。

著者は、言います。「センスのよさとはミステリアスなものでもないし、特別な人だけに備わった才能でもありません。方法を知って、やるべきことをやり、必要な時間をかければ、誰にでも手に入るものです。僕もあなたもセンスは等しく持っており、違いはそれをどう育てているか、どう使っているか、どう磨いているか」だと。

その「センス」ってどうやって磨けばいいのかなど疑問に思った人にお勧めの一冊です。

片桐 重和（共同利用センター）



## 負の歴史から学ぶということ

### 『世界史を変えた13の病』

ジェニファー・ライト 著、鈴木涼子 訳（原書房）

あなたは病気を防ぐために、何か気をつけていることはありますか？帰宅後のうがい・手洗いや、人混みでのマスクの着用など、病気に対して予め対処していることはありますか？

本書に登場する「疫病」が流行した当時、多くの人々が対抗する術を持たず、または不確実な方法しか知らなかった為、そのまま亡くなったとされています。中には、現代では治療可能な病気もあります。ではなぜ対抗できるまでに至ったのか。

筆者は冒頭に「わたしたちはあり得ないほど幸運な時代に生きている」と述べています。それは、前述したような予防法を当然のように知っていることや、医療技術の発展や医薬品の豊富さを指すのかも知れません。

私は本書を読んで、私たちの幸運、すなわち科学の発展は、過去に生きた人々のおかげで創り上げられていると感じました。

歴史を「退屈なもの」と感じる方もいると思います。そんなあなたの「今」も、誰かの幸運のための歴史となるかも知れませんよ。

喜多村 侑佳（職員）



あなたの身近にも「ゾンビ」がいます

## 『ゾンビ・パラサイト』

小澤祥司 著（岩波書店）

数年前「寄生獣」という映画が上映されました。染谷将太が演じる主人公・泉新一に寄生した生物が人間の体内を棲家として、分身をこの世にはびこらせる SF 映画です。

こういった現象は身近にも存在します。夏にカマキリのおしりから出るハリガネムシ(以下：ムシと呼ぶ)は、カマキリに食べてもらい、体内に棲みつきます。寄生した後はカマキリの体内を棲家とします。後日、産卵のために棲家であるカマキリを水中まで誘導します。勿論水に入ったカマキリは溺死します。体内から出たムシは水中で卵を生み孵化。その後幼虫は陸から出て、次のカマキリに食べてもらいます。このことで輪廻転生を繰り返しているのです。これ以外にもカニを乗り物のように操る「フクロムシ」。ミツバチの体内を棲家とし、身体を食べつくす「ゾンビ蠅」等々あります。

このように、動物に食べられることで体内に棲みつき、棲みついた動物の行動までも操る。まさに身近なゾンビ。興味のある人は是非読んでみてください。

桑田 成年（職員）



日本の有名な川で起きる不審な事件の真相とは！？  
日本史と地理の勉強にもなる歴史ミステリー。

『歴女美人探偵アルキメデス—大河伝説殺人紀行』  
鯨統一郎 著（実業之日本社）

この本のあらすじは、歴史学者の早乙女静香、翁ひとみ、桜川東子の 3 人がウォーキングの旅で訪れた石狩川や利根川などの日本でも有名な川で遺体を見つけ、殺人事件に巻き込まれてしまいます。3 人は、関係者に聞き込みをしたり、情報を集めていく中で、真実に近づいていきます。事件か事故か、その真実は一体！？

この作品は、主要人物の 3 人が歴史学者ということもあり、3 人の普段の会話の中に日本史に関する話題が上ったりします。私たちが日本史の授業で聞いたことがある史実がその 3 人の会話のなかで詳しく解説されていたりするので日本史の勉強になります。また、今回の舞台が利根川や信濃川などの日本でも有名な川ということでその川に関する知識やその川がある地域の歴史に関することも 3 人の会話から知ることができるため、地理の勉強にもなります。

日本史と地理の両方の知識が学べるこの歴史ミステリーをあなたも読んでみては？

住本 侑希（人間文化学科 1 年）





2000 年以上に続くこの国で私達は何者なのか、  
日本とは何なのか、この本が語る真実とは！！

## 『日本国紀』

百田尚樹 著（幻冬舎）

この『日本国紀』は、百田尚樹さんが日本の素晴らしいところについて、歴史を通じてこの本にしています。まえがきを読んで、様々なことが僕の心を打ちました。

例えば、日本は 2000 年以上続いています、どんなに進んでいる国でも、2000 年以上続いたところがあるかと言うと、それは日本だけです。この文章を読んで、日本という国は素晴らしいなあと思いました。こんな小さい国で、様々な争いごと、出来事がありながら、この日本という国は我慢強く、辛抱強く、この 2000 年以上の歴史の中を生き抜いてきました。

このようなことから、新入生の方々にはぜひこの本を手にとっていただき、最後まで読み切ってください。ページ数は少し多いとは思いますが、内容も面白いので、読むのも苦では無く、逆に面白さの方が勝つと思います。ぜひお願いします。

渡川 舜（人間文化学科 1 年）



**薬剤師の使命、今後の在り方がこの一冊で分かる！**

**『目覚めよ、薬剤師たち！』**

**—地域医療を支える薬剤師の使命』**

**鶴蒔靖夫 著 (IN 通信社)**

みなさんは「薬剤師」と聞くとどんなイメージが思い浮かびますか？一般的に薬剤師は薬を調剤する人というイメージが定着しています。実際には、処方箋の通りに調剤するだけで、患者さんとのコミュニケーションが取れていないのではないかと。まず、患者さんとのコミュニケーションが図れないと患者さん本位の医療を提供することもできません。これまでは、薬学部は4年制で創薬中心の教育でしたが、平成18年度にスタートした6年制薬学教育は薬剤師養成のための教育を行う事で期待されています。最近では、病棟や在宅など活躍の場を広げ、チーム医療を医師達と組んで本来の職能を発揮することで医師の薬剤師を見る目が変わりつつあります。

本書には、この様に現在の薬剤師が置かれている立場、本来の役割、これからの在り方が書かれています。薬剤師になって医療に貢献しようとしている人へ本来の薬剤師の役割を認識するきっかけにぜひ読んでもらいたいです。

戸花 啓太 (薬学科1年)



## 架空の日本でメディアの規制と戦う

### 『図書館戦争』

有川浩 著（角川文庫）

「メディア良化法」によるメディアへの監視が行われている架空世界の日本で、主人公の笠原郁は、ある書店で行き過ぎた検閲の場に遭遇してしまいます。本を守るために割り込みますが、法の前ではどうにもなりませんでした。しかしそこに監視機関に対抗できる組織「図書隊」を名乗る人物が現れます。その場を收拾させた図書隊員は、郁にとって王子様のように見えたのです。

郁はこの王子様の姿を追い求め、行き過ぎた検閲から本を守る組織である「図書隊」に入隊します。入隊後は日々の訓練を不器用ながらも愚直に頑張る情熱が認められ「図書隊」の中で特にエリート部隊である「図書特殊部隊」に配属されますが、相性が最悪の上司である堂上篤も同部隊に所属しており…。

本を巡る争いの中で救われた主人公が、本を守る立場になり、一人の人間として成長していく物語です。

野田 日向（人間文化学科1年）



迷いながら生きてきた著者の体験をもとに、  
大学で学ぶことの意義を探ることができる本

『大学でいかに学ぶか』  
増田四郎 著（講談社現代新書）

この本が出たのは1960年代ですが、内容は今でも大学生への貴重なアドバイスとして通用するものばかりです。著者は大学ではいきなり専門に特化するよりは、じっくり考えながら幅広い教養を身につけることの大切さを強調します。西洋経済史の専門家となった著者は外国語の習得に苦労した経験から若いうちは理屈ぬきに語学を勉強することを勧めます。大学の勉強において周囲の人との接触は特に大事なので、ゼミの重要性は強く指摘されています。普通の講義では、学生と教員が個人的に接触するチャンスは少ないからです。ゼミは就職本位ではなくて自分がやりたいテーマによって選ぶことを推奨します。

庶民としての人生態度を貫く著者は権力をたてにして物を言うような人や、他人を俗人と見下すような知識人を嫌います。そして、若者にはどんな仕事であろうとも精を出して働く人であって欲しいと願います。

皆さんが実りある大学生活を送ることを期待しています。

早川 達二（経済学科）



## 科学ってこんな面白かったっけ?!

### 『世界一深い100のQ』

—いかなる状況でも本質をつかむ思考力養成講座』

ロジェ・ゲスネリ [ほか] 著, 吉田良子 訳 (ダイヤモンド社)

『科学』と聞くと難しそうなイメージがあるかと思います。しかし、本書は宇宙、物理、生物、数学、医学、農学、経済、化学、環境など様々な専門分野をわかりやすく解説してくれています。

「虹の色はどこから生まれるのか?」「目をあけたまま、夢を見ることはできるか?」「地球温暖化の責任は我々にあるのか?」などなど、目次を見ただけでも面白そうで興味を惹かれる内容だと思いませんか? これらを含む100問のクエスチョンの答えが各章簡潔にまとめられてあり、とても読みやすいと思います。

本書に書かれている『科学』を知らなくても日常生活に困ることはないかもしれません。しかし、『科学』に興味がなかった人が本書を読んで「科学って面白い!」「もっと知りたい!」…と興味を持つきっかけになるかもしれません。きっと読んで良かったと思うはずなので、ぜひ一度読んでみてください。

藤井 香苗 (職員)



## 君たちは民主主義を守るか？

### 『「脱」戦後のすすめ』

佐伯啓思 著（中公新書ラクレ）

新入生の皆さんは、国政選挙や地方の首長等の選挙権を全員持っていますね。18歳で選挙権を持つようになったのは、2016年ですから、その頃きっと学校で、選挙権を持つことの意味を学んだことでしょう。18歳以上の人であれば、年齢、性別、貧富などに関わらず、平等の1票を行使できます。これは主権在民の民主主義の基本のキですが、日本が「民主主義」を基本とする国になったのは、第2次世界大戦の敗戦後、1946年に新憲法が制定されてからです。民主主義は西洋近代社会がそれなりに長い年月をかけて生み出したものです。自由、平等、人権などが基本であり、人間社会の一つの理想郷であり、人類はそれに向かって進むのだと、私たちの多くは単純に信じてきたかもしれません。しかし、民主主義は、その核心に本質的に大きな危険をはらんでいることが、この本を読むとよく分かります。これから生きる皆さんの知恵が試されます。

松田 文子（学長）



今まで出会った人すべてが今のあなたを作っている！

## 『オール1の落ちこぼれ、教師になる』

宮本延春 著（角川文庫）

筆者は36歳で初めて教壇に立つ新米教師です。筆者は教師になるような健康で勤勉な生活とは全く無縁の小中学生時代を送っていました。小学校低学年の頃からのいじめから始まり、16歳で母親の死、18歳で父親の死に直面します。そして筆者は、天涯孤独の身となり世の中で誰も助けてくれない落ちこぼれとなってしまいました。

人の評価は何で決まるのでしょうか。筆者は、中学の成績がほとんど1というもので典型的な落ちこぼれでした。しかし、彼女や職場の方の支えがあり定時制高校に入学しました。そこで多くの方に支えられながら受験勉強に励みました。受験が近づいてくると不合格だった場合の話が浮上してきたため、不安になることもありました。しかし、筆者は無事に第一志望の合格通知を受け取ることが出来ました。

この本を読むことで、今まであなたが出会ってきたすべての人の大切さに気付いてもらえれば嬉しいです。

これからも「人との出会い」を大切にしていってください。

目黒 海結（人間文化学科1年）



あなたもしくじっていませんか？  
「気の利いた言葉」「敬語」…  
これらもしくじりの原因になっているかも

**『会話のしくじり』**  
**梶原しげる 著 (SBクリエイティブ)**

みなさんは普段の会話の中で、「しくじったなあ」と思った経験はありませんか。現代の若者は、「ふわふわ言葉」や間違った敬語の使い方により、あらゆる場面で会話のしくじりを引き起こしています。

会話でしくじらないためには、一文を短くしたり、相手を褒めたりするなど、ちょっとした工夫や努力が必要です。もちろん、相手のことを気にせず話が衝突してしまったり、自分のことばかり話したりなどという行為は、「会話のしくじり」を起こすきっかけになってしまいます。そのためにも、「面白がって聞く」といった聞き手側に回るというのも、「会話のしくじり」を引き起こさない上で必要なスキルと言えるかもしれません。

この本の中で紹介されている数々の方法で、あなたも「会話上手」になってみませんか。

山本 美怜 (薬学科1年)





にのいのすべてが分かる！！

『「香り」の科学—匂いの正体からその効能まで』  
平山令明 著（講談社ブルーバックス）

私は小さい頃からずっと人より鼻が利きます。生活をしていて臭い匂いは本当に辛く、良い香りでも少し強く感じることもあります。

そこで、身近な「香り」について興味をもち将来的にも活かせるかと思い、この本を買いました。最新科学から香り分子を解析する内容があり、より興味を持って読むことができると思います。はじめに、人間にとっての嗅覚の重要性が分かります。例えば、目と耳は2つで鼻と口は1つしかないと思われがちですが鼻は鼻孔が2つと捉えることができます。2つあることで、目と耳と同様に嗅覚も立体的である必要性があることが分かります。また、植物や動物の天然由来の香料から合成香料までを分子レベルで見るため化学の知識も身に付くと思います。

最後には植物の香り分子の一覧表があるのでそれらを自ら調べ、本の内容と結びつけることでより一層自分の知りたい「香り」について理解が深まるのでオススメです。

井上 昌也（工学研究科1年）



市の職員が何も知識なく水族館で働き、  
周りの人に助けられながら成長していく恋愛小説

## 『水族館ガール』

木宮条太郎 著（実業之日本社文庫）

この本は、水族館での仕事の内容がメインに書かれた恋愛小説です。

市の職員が何の知識もなく水族館で働かなくてはならなくなってしまいましたが、先輩の梶良平や職場の皆が優しくアドバイスをくれる中で、水族を飼育することの難しさや、水族館の役割、水族館の裏側などを主人公は学んでいき、主人公は一年ですっかり水族館の一員になります。

普段見えない水族館の裏側の部分を詳しく知ることができます。海洋生物科学科のアクアリウム専攻を考えている人にとってはとても興味深い内容がたくさん学べる本になっていると思うので、ぜひ読んでみてください。

そうじゃない人も、この本を読むことで、水族館に対する意識が変わり、また違った視点で水族館を楽しめるようになると思います。

田中 佑季（海洋生物科学科 1年）



自分の気持ちを上機嫌にする方法、知っていますか？

## 『不機嫌は罪である』

斉藤 孝 著（角川新書）

著者は青年期に「不機嫌な時代」を過ごしたことで不機嫌の罪深さと上機嫌の威力を身に染みて感じたそうです。この本は、「職業としての上機嫌」を提案しています。「職業としての」という意味は、「情熱、責任感、判断力をもってそれを行うよう求められるもの」という意味だそうです。不機嫌を抑えて人に見せないというのは、本来の私たちの職務だという考えです。ただし、子どもなら不機嫌は許されるかもしれません。それも言葉をお話せるようになってからは「情報伝達」のための不機嫌ではなくなるし、せいぜい許されても小学生くらいまでだと指摘しています。

現代は SNS の時代になり、新たな不機嫌伝達ツールが生まれました。たくさんの無免許運転者が首都高速を走っているようなものと表現し、その無免許運転者の不機嫌をうまく避けて通る能力が今は必要だと語っています。

後半では上機嫌を身につける方法を、具体的に挙げています。読み終える頃には上機嫌になっていることでしょう。

辻 圭位子（人間科学研究科 2 年）



## 遠いようで身近なもの

### 『骨の学校—ぼくらの骨格標本の作り方』

盛口満, 安田守 著 (木魂社)

骨とはとても身近な存在です。魚や手羽先を食べたときなど目にしますし、もちろん自分の体の中にも存在します。『骨の学校』は、そんな骨に焦点をあて、エッセイで綴った本です。

交通事故で死んだタヌキの骨、フライドチキンからつくる鶏の骨格標本、砂浜に漂着するクジラ類の骨、他の生物とは一線を画するカメやムササビの骨格など、様々な骨にまつわる話が繰り広げられます。骨をみつめていくとその骨の持ち主の印象が変わって感じたり、どのような進化を遂げてきたのかが分かります。普段よく見かける生き物から意外な一面を発見することもできます。

また、骨に関わる登場人物も個性的な面々ばかりで読んでいて飽きません。

遠いようで身近な骨に向き合ってみませんか？

益 七瀬 (工学研究科 1年)



夢を現実に、科学の力でそれが叶います！

## 『透明人間になる方法』

—スーパーテクノロジーに挑む』

白石 拓 著（PHPサイエンス・ワールド新書）

透明マントやサイコキネシス…ファンタジーの世界ではよく見る言葉ですが、現実でそんな話をすれば「非科学的だ」と笑われてしまうでしょう。しかし、本当にそれらは非科学的な存在なのでしょうか？

そんな魔法のような存在が、現実の科学でどこまで研究されていて、どのくらい開発が進んでいるのかを真摯に紹介してくれているのが今回紹介する本です。この本は2012年に出版されているのですが、この中には自律走行自動車の話も出てきます。2018年12月現在、一般向けに自動運転車が提供されている国もあるということは、わずか6年で実用段階に至るまで技術が進歩したということです。

こう考えると近い将来、私たちが透明マントを手に入れることも夢ではないのかも…と期待を胸にしながら読むと楽しい一冊なのではないでしょうか。

丸谷 美貴（職員）



## 悩みと幸せに生きることとの関係とは？

### 『顔ニモマケズ』

水野敬也 著（文響社）

人はそれぞれ、悩みを抱えて生きています。大学生活は、自分なりの悩みとの向き合い方を見つけていく貴重な期間でもあると思います。「悩みとの向き合い方」と言っても、試験問題のような唯一の正解はないのでしょう。一見それっぽいフレーズは、世の中にあふれているようにも感じるけれど。「ありのままの自分が大事」「前向きに生きよう」「自分を受け入れよう」…。でも、どうやって？

私たちにとって大きな助けになるのは、そんな理屈っぽいフレーズよりも、現実には何かの悩みと向き合おうとしてきた誰かの、その人自身の実体験から語られる言葉、そしてその人の存在そのものではないでしょうか。

この本は、病気などにより顔や外見に「見た目問題」を持つ当事者の人たちのインタビュー集。「いつも明るく前向きに」「悩みを乗り越えて強く生きる」という単純な言葉ではなく、悩みと向き合って生きるとは、とてもクリエイティブなことだなと感じます。

山崎 理央（心理学科）



## 絶滅した理由をその生き物に聞こう

『わけあって絶滅しました。』

丸山貴史 著（ダイヤモンド社）

私たちは今の世の中を頑張って生き抜いているが、それが叶わず絶滅してしまった生き物たちもいる。その絶滅してしまった生き物たちが描かれている本。

この本の面白いところは、ダラダラと著者が説明するのではなく、その絶滅してしまった生き物が、自分がどうして絶滅してしまったのかをユーモラスにインタビュー形式で説明しているところである。どうして絶滅してしまったかだけでなく、絶滅した年代やその生き物の大きさ、生息地、食べ物、何類にあたるのかが簡潔に書かれている。イラストもあるので、どんな生き物だったのかもわかりやすい。もちろん、簡潔に補足説明も書かれている。

生き物のインタビューだけでなく、本の最初に絶滅してしまった理由のベスト3までが発表されているが、その理由も読んでいろいろ考えてほしいと思う。

吉津 悠子（職員）



あの頃の思い出はどこに行ってしまったのでしょうか

## 『思い出あずかります』

吉野万理子 著（新潮文庫）

まぶたを閉じれば、あの頃の懐かしい「思い出」たちがとめどなくあふれてくるでしょう。網を片手に虫取りをしていた夏の日、外が真っ暗になるまで友達と遊んだ日、卒業式。振り返れば思わず目がくらんでしまいそうな「思い出」。道端で見かけたかわいらしい野良猫、昨日見上げた夕焼け空があまりにもきれいでなぜか悲しくなってしまったこと。昨日の夕飯。そんな、いつかは忘れてしまうような「思い出」も今は、カメラで簡単に写真として残しておくことができます。でも、その時の心情をもう一度あじわうことはなかなか難しいものです。

もし子供の時だけそれらを預けてお金を貸してくれ、20歳までに返すと思い出を返してくれる質屋があるのならどうしていいでしょう。質屋を営む魔法使いに中学生の少女が出会い、様々な出来事を通じて成長していく青春物語です。

空想物語が好きな方、青春ものが好きな方、思い出に浸りたい方にどうぞ。

池原 正恒（工学研究科1年）





平凡であった主人公・ダレンを待ち受ける壮大な運命とは

『ダレン・シャン—奇怪なサーカス』  
ダレン・シャン 著，橋本恵 訳（小学館）

この物語はクモが大好きないたって平凡な少年、ダレンが主人公です。些細なことからフリークショーに友人のスティーブと足を踏み入れました。しかし、とある事件をきっかけに血の半分は人間だが半分はヴァンパイアという「半ヴァンパイア」になってしまいます。家族や友人と別れ、自分をヴァンパイアにした張本人でダレンの師匠であるクレプスリーと共に冒険を始めることとなります。

全 12 巻という長編のストーリーですが子供向けと言うこともあり、サクサクと読むことができます。第 1 巻はあくまでもプロローグに過ぎませんが、短い中でもこれからの展開に胸が熱くなっていくことが読み進めるうちにわかると思います。

内容は子供向けといえども練り込まれたストーリー、友人や師匠との複雑に絡まる関係性、全体にはりめぐらされた巧みな伏線に魅了されること間違いなしです。

川添 舞子（人間文化学科 1 年）



ハラハラドキドキするストーリーを探していますか？  
それなら、この本がぴったりです！

## 『あなたをずっとあいしてる』

宮西たつや 作絵（ポプラ社）

トロンは、ティラノサウルスの群れのボス、ゼスタと心優しいセラの間に生まれてきた子どもです。3匹はとも仲が良かったのですが、地震や戦いのためトロンの親は亡くなってしまいました。1人残されたトロンは恐竜たちの草原から離れた所に行ってしまう、そこでたくさんの友達を作り、様々な冒険や困難を一緒に乗り越え、トロンは恐竜たちの草原に戻ることができます。しかし、そこでは地震のせいで火山が大爆発しており、最初は敵であったバルドも恐竜たちと協力して、必死に自分たちの草原を守り、恐竜たちは無事に生き残ることができましたが、残念なことにバルドは亡くなってしまいました。しかし、この出来事は恐竜たちの友情を深め、最後には、亡くなったはずのトロンのお母さんが本当は生き残っており、トロンと再会することができる、という冒険や友情、そして家族愛についてたっぷり書かれた本です。また、地震が起こるたびに何が起こるかわからない、ハラハラドキドキするストーリーです。

KIKO LOPES GABRIELA KAORI（国際経済学科1年）



闇の帝王を倒すべく立ち上がった  
ハリーと仲間たちの愛と勇気の物語。

『ハリー・ポッターと謎のプリンス』  
J. K. ローリング 著，松岡佑子 訳（静山社）

ハリーは魔法界でかなりの有名人でした。  
それは闇の帝王に狙われて唯一生き残った少年だからです。

そんなハリーと、友人のロン、ハーマイオニーの三人が初登校の汽車の中で同席になったことからこの 3 人の物語が始まっていきます。

ホグワーツ魔法学校に入学した彼らはホグワーツの謎を解きながら愉快的な学園生活を謳歌していました。そんなある日、ハリーが夢で闇の帝王の復活を暗示する夢を見たことから、闇の帝王との熾烈な戦いのストーリーが始まります。

闇の帝王ヴォルデモートを倒すためには分霊箱を破壊し闇の帝王の魂の一部を破壊しないといけないということが判明します。分霊箱を破壊するための試練を潜り抜けた先、何が彼らを待っているのでしょうか…。

栗原 英輔（人間文化学科 1 年）



ゆるされている。世界と調和している。  
それがどんなに素晴らしいことか。

## 『羊と鋼の森』

宮下奈都 著（文藝春秋）

ある日、板鳥という 1 人の調律師が学校に訪れました。ピアノまでの案内を任された主人公・外村は、そこで調律というのを知り、調律師の板鳥に弟子入りを申し込んでしまふ…。

断られた外村は卒業後、調律師として板鳥の働く江藤楽器店に就職をし、外村はそこで出会うさまざまな先輩やお客さんと一緒に数々の困難を乗り越えていきます。

調律に魅せられた青年外村が、調律から得られるものとはいったいなんなのか!!

言葉で伝えきれないなら音で表せられるようになればいい。

宮下奈都が贈る祝福に満ちた長編小説です。

桑田 一希（人間文化学科 1 年）



笑いあり感動あり、夫婦の愛が伝わる物語。

『大恋愛—僕を忘れる君と』  
大石 静，高橋和昭 著（扶桑社）

医者として働いていた女性が、突然物覚えが悪くなり病院に行くと、若年性アルツハイマーと診断されました。彼女は、作家として働いている一人の男と知り合い、だんだんと仲良くなっていき恋が芽生えます。女性はその男と付き合うことになり、結婚します。その後も日々病気が進行していき、夫婦の力と周りに助けられてこの病気を考えていこうとします。そんな環境の中、2人で病気を乗り越えようとする物語が描かれています。

夫婦の力は凄いい、病気に負けないような力を持っています。そして、夫婦の愛の力が込められています。また、同じような病気を持っている人に“勇気”と“頑張る”というものをこの物語は届けようとしています。

他人事だと思わず手に取って一度ご覧になってもらいたい、笑いもあり、感動ある物語になっています。

田中 大輔（人間文化学科1年）



キケン：してはいけないこと、したくないこと。  
そんな概念なんてこの本を読めばバカバカしくなる。

『キケン—成南電気工科大学機械制御研究部』  
有川浩 著（角川文庫）

私は本を読むのが不得意です。時間をかければ理解できますが、文字からあまりワクワクを得られないのが現状でした。

そんな時に見つけたのがキケンという本でした。最初はそのシンプルな題名に惹かれましたが、実際その本に出てくる機研はとともキケンです。ですが彼らの破天荒な作戦、友情はととも目を惹くものでした。無難なスポコン？綺麗な友情？そんな簡単な物語ではありませんでした。すごくキケンで破天荒、何やってんだ！と突っ込みたくなるような本です。ですが彼らの破天荒さの中には芯があり、そして作戦には熱があります。題名だけで選んだ本ですが、読んでみるととてもワクワクが満載の本でした。

自分は特にクライマックスのロボット相撲大会のシーンがなんとも胸を打たれる熱さを感じました。自分はこんなキケンでワクワクするようなことは正直できません。だからこそこの本に憧れ、入り込めました。シンプルにワクワクしたい方にオススメの本です。

妻戸 怜央（人間文化学科1年）



町の安全を守るヒーロー！  
その名も、「三匹のおっさん」！！

『三匹のおっさん』  
有川 浩 著（新潮文庫）

「じじいと呼ぶな。おっさんと呼べ！」これは、いつも悪者を退治した時に言う言葉です。若くみられることをプライドに持っている幼馴染の三人のおっさんが、地域の安全を守るために悪者を退治します。毎回、痴漢や悪徳詐欺など様々な事件が起き、その度に彼らは自分たちの特技を使って退治をしていきます。もしかしたら、彼らが逮捕されるのでは？と思わせるところまでとことんします。竹刀で叩いたり、電気ショックを与えたり、今ではできないところまで彼らがやるため、読みながらヒヤヒヤもしますが最後にはスカッとします。

また、この本では「家族」が大切な役割を果たしています。彼らは知らないが、家族は彼らの活動を知っており、そして、心配になって後をついて行くこともあります。彼らの活動を理解し、陰で支えてくれ、温かく見守ってくれる家族がいるからこそ彼らは命の危険を犯してまで町の人のために悪者と戦うことが出来るのではないかと考えます。

中山 舞香（人間文化学科 1年）



とてつもなく強く、気の強い村上水軍の娘の話。  
獅子奮迅の活躍に注目！

『村上海賊の娘』  
和田 竜 著（新潮社）

村上海賊とは村上水軍とも呼ばれ、現在の広島県尾道市および三原市と、愛媛県今治市を結ぶ瀬戸内海上の島々、芸予諸島を中心に蟠踞（ばんきょ：広い土地に勢力を張ってそこを動かないこと）した海賊衆です。

この村上海賊の娘とは、村上武吉の娘、景の物語です。

景は「好きな人と船に乗って戦う」というぶっ飛んだ考えをしており、相当な気の荒さがある。また、景は身長 180cm という今の時代でも相当な高さの身長を持っており、普段は船に乗っているため肌は焼けています。

そして、毛利家と織田家の争いが始まります。毛利にとって、ほぼ天下を手に入れかけている信長と戦うのはありえない話ですが、それでも毛利は戦うのです。

そして景は 1 人小早に乗って戦います…。

続きはご自身の目でお確かめください。

信永 知遥（人間文化学科 1 年）





珈琲店タレーランに通う主人公アオヤマと  
バリスタの周りで起こる摩訶不思議な謎を  
次々と解いていく、謎解きストーリー

## 『珈琲店タレーランの事件簿』

—また会えたなら、あなたの淹れた珈琲を』

岡崎琢磨 著（宝島社文庫）

本書は、主人公と珈琲店のバリスタが解いていく伏線たっぷりの謎解きも凄く見所がありますが、人間関係のおもしろさもこの本の見所だと思います。

主人公とバリスタのすこし甘酸っぱい恋の様子も見ていて思わず、ニヤけてしまうほどです。事件を通していくうちに距離を縮める二人の様子もこの本の 2 つ目のいいところですね。しかし、謎解きの中にも言葉巧みな文章表現により騙されてしまい読み終わったときにハッとしてしまうところがあるので、一气読みしても飽きることなく読み切れと思います。

謎解きばかりではなく、日常のストーリーも結構挟まれるので頭を休められ、読みやすいこともこの本の特徴です。

謎解き系の小説が好きな人は是非この本を読んでみてください。

濱本 嘉人（スマートシステム学科 1 年）



## 奇妙、だけれども、ほんのり心温まる話

### 『暗いところで待ち合わせ』

乙一 著（幻冬舎文庫）

私が紹介する本は乙一さんの著書『暗いところで待ち合わせ』という本です。

主人公のアキヒロは殺人事件の犯人として警察に追われ、それから逃れようとしており、人間関係に悩みを抱えている普通の会社員です。警察から逃れようとして、たまたま近くにあった、目の見えないミチルの家に忍び込む。そんなミチルも父が亡くなり孤独で、外に出ていくのを恐れているという悩みを抱えている。その後ミチルが殺人の現場を目撃したとして近所に住むハルミという者がミチルに近づいてくる。ミチルは誰かが家に居るという気配を感じとりながらも気にしないふりをして生活し続ける。そんな2人の奇妙な物語です。

心温まるストーリーなのでぜひ皆さんに読んで欲しいと思います。

林 芽吹（人間文化学科1年）



辛く苦しい出来事に直面した時、この物語の主人公を  
心に抱くと、励まされるかもしれません。

## 『老人と海』

アーネスト・ヘミングウェイ著、福田恒存 訳（新潮文庫）

「サンチャゴ」という名のキューバの老漁父がこの物語の主人公です。一匹も魚が釣れぬ日が八十四日間も続いたり、餌にかかったカジキマグロが想像を絶する大きさであったり、港に帰る途中サメに襲われたり、と彼は幾度となく逆境に見舞われます。屈することなく立ち向かい、そのたびに雄々しく闘うのですが、最後は現実のうちめされてしまいます。

読了後、「サンチャゴ」の姿を見ていて何もかも無駄になってしまったという虚しさを抱きました。大切な漁具を失い、舟も身体も傷つけたあげく、骨となったカジキマグロの他は何一つ手に入らなかったためです。

しかし、老人が一人で途方もない大きさの怪物と闘い、その巨魚に死闘の末に勝ったという事実は変わりません。虚しさを覚える一方で、「サンチャゴ」という人間の確かさに憧れてしまいました。艱難辛苦のただなかにある時、彼が言っていた言葉を思い出したいです。

「けれど、人間は負けるように造られてはいないんだ」と。

横山 司（人間文化学科 1 年）



## あなたの精神は宇宙的恐怖に支配される

### 『ラヴクラフト全集 2』

H. P. ラヴクラフト著，宇野利泰訳（東京創元社）

この本には同じ世界観で別々の物語が3つ収録されています。クトゥルフ神話を読みたい方には、その名を冠する物語が収録されているこの本をお勧めします。

「クトゥルフの呼び声」は、主人公が大おじの研究に興味を持ち、その調査を進めていく物語です。しかしその途中、関係者たちが大おじと同様に謎の死を遂げていることが判明します。主人公は、残された手記からクトゥルフの存在を知るが、それを信仰する者たちによって自分は殺されてしまうのだらうと悟り、調査について遺言を残し、この物語は終わります。死によって記憶を拭えることに感謝する場面は、人間の弱さ、無力さを考えさせられ、印象に残りました。

私は、ラヴクラフトの扱う宇宙的恐怖を絶対的な怪物や怪異がもたらす恐怖や狂気と解釈し、一味違うホラー小説として残りの2編も楽しむことができました。

図解クトゥルフ神話や他のラヴクラフト全集と併せて読むことで、クトゥルフ神話をさらに楽しめると思っています。

横山 雅治（スマートシステム学科1年）



不思議な共同台所「すみっごはん」で  
あなたも心と身体を暖かくしてみませんか？

『東京すみっごはん』  
成田名璃子 著（光文社文庫）

この本は様々な悩みや問題を抱える人たちがすみっごはんという共同台所に集い、自分にとって大切なものや気持ちを発見する物語です。

この本は女子高生の主人公が学校でいじめられていて、先生や周りのクラスメイトにも見えて見ぬ振りをされています。幼なじみの純也やおじいちゃんが助けようとしてくれますが、いじめのリーダー格の真理亜に追い込まれていきます。そんな時に見つけた不思議な共同台所であるすみっごはんに出会い自分の居場所を見つけるという話です。他にも、すみっごはんに集まる色々な人達の見線で書かれたお話が4つあります。

温かな家庭料理と人々の交流が、冷えきった主人公たちの心を温めてくれるような小説です。

岩田 櫻子（人間文化学科1年）



## ドラえもん好きがオススメする ドラえもんについて考えさせられる本

### 『新訳「ドラえもん」』

藤子・F・不二雄 漫画原作，佐々木宏文（小学館）

この本には映画「STAND BY ME ドラえもん」に出てきた話が全部載っています。ドラえもん好きにはたまらない本だと思います。文章だけでなく実際の漫画も載っているので、小説を読むのが苦手な人でも簡単に読むことができます。

この本を読むことで、ドラえもんがますます好きになると思います。また、ドラえもんについて考えさせられる本だと思います。本の内容としては漫画のシーンをあげて本当はこの場面でドラえもんやのび太はこう思っていたんじゃないのか、など筆者が述べています。そこで共感することがたくさんあります。また、筆者はこう言っているが自分はこうだと思うなど、自分の意見を持つことができたり、こういうのび太の行動は真似しよう、など考えることができます。

ドラえもん好きの僕が言っているので間違いありません。ぜひ一度読んでみてください。

大森 優也（スマートシステム学科1年）



本が読みたい！続きが気になる！  
現代人必見の楽しく学べるストーリー

『ツレがうつになりました。』

細川貂々 著（幻冬舎文庫）

ある日突然、うつ病という病気になってしまったツレについての物語。真剣に病気に向き合って治療していくツレをアシストする妻である筆者。徐々に治ってくるツレを見て喜ぶ妻の感情があふれてくる感動系コメディとも言えます。

病気を治していく物語って面白くなさそう、と思う人もいるかもしれませんが、作画や主人公が行うケア方法など面白く綴ってあります。

本文中の情報によると「うつ病は誰にでもなる可能性があります」と、書いてありました。皆さんの周りでも起こりうる話かもしれませんよ。面白く学べる参考書として使ってもいいかもしれないですよ。

楽しく読めて、学べる面白い1冊です。是非読んでもらいたいです。

京楽 方志（スマートシステム学科1年）



## 苦しい時に読むと明るい方へと目を向けられる一冊

### 『キッチン』

吉本ばなな 著（新潮文庫）

この本は人間の克服と成長を綴った小説です。


主人公のみかげは幼い頃に両親を亡くし祖母と二人暮らしをしていました。しかし唯一の家族である祖母も亡くなってしまい、孤独感に囚われます。そんな時、同じ大学の田辺雄一から突然の誘いを受け、田辺とその母のえり子と同居することに。3人で暮らす日々の中でみかげの心は孤独や苦しみから抜け出そうという方向に向いていきます。

小説中にえり子の「人生は本当にいっぺん絶望しないと、本当に楽しいことが何か分かんないうちに大きくなってしまおう。」という言葉があります。生きているといつかは本当に悲しく苦しいことが起こると思います。

私はこの本を読んで、何度も底まで沈みこんでも何度も立ち上がり、明るい方へと向かっていける強さを持ちたいと思いました。そしてこの本はそのような気持ちを励ましてくれる小説だと思います。

白名 真子（薬学科1年）





三兄弟の苦悩、葛藤に対してどのように戦っていくのか  
騙し騙されの詐欺奇譚

『流星の絆』  
東野圭吾 著（講談社）

主人公とその兄弟は、子供の頃何者かによって両親を殺されてしまいます。その14年後、両親を殺した人物に近づくチャンスができます。主人公と兄弟たちは、どのように復讐をしていくのでしょうか？

まず、どうしてそのチャンスができたのか？ 三兄弟は詐欺行為をしていました。詐欺をすることにより、負け組になるのではなく、勝ち組になると心に決めたからです。詐欺行為をしていく中で、犯人であろう人物の息子に近づくこととなります。犯人であろう人物とのやりとり、その息子とのやりとり、三兄弟の苦悩、葛藤に対して、三兄弟はどのように戦っていくのでしょうか？

物語の根幹にあるのは兄弟愛ですが、それだけではなく、ミステリーとしても楽しめます。読んだ後、ハヤシライスが食べたくなりますよ。

新名内 弓貴（人間文化学科1年）



## 物事を数字で判断する「大人」に疑問を抱く主人公と 小さな星から来た王子さまの物語


『Le Petit Prince 星の王子さま』  
サン=テグジュペリ 作，内藤 濯 訳（岩波書店）

大人は本当に大切なことは訊かず、数字にばかりこだわります。例えば新しく出来た友達のことを話すとき「その人はいくつ？」「収入は？」など数字だけを訊きどんな人か分かったつもりになっています。

主人公もそのうち数字にしか興味を持たない大人と同じ人間になるかもしれないと感じていました。そんなとき出会ったのが星から来た王子さまです。王子さま自身も、数字にしか興味を持たない大人達を疑問に思っていました。主人公は、王子さまと話をしていくうちに、王子さまがもうすぐ星に帰らなくてはいけないことを知ります。王子さまの話を信じてくれない大人達が嫌になった主人公に、王子さまは「夜になったら星を眺めてね。あの星の中の一つに僕が住んでるんだから」という言葉を残して星に帰ってしまいます。

大切なものは数字だけではわからない、目に見えないところにある。数字だけで判断される今の世の中では、いかにこういった考えができるかが重要になると思います。

原 彩乃（人間文化学科 1 年）



生きるために消してしまった  
「かけがえのないもの」の物語。

『世界から猫が消えたなら』  
川村元気 著（小学館文庫）

私がオススメする本は、『世界から猫が消えたなら』です。脳腫瘍で余命わずかであることを宣告された主人公は、悪魔に「この世界から何かを消す。その代わりにあなたは一日だけ命を得る」と言われます。悪魔に言われるまま大切な思い出があるモノたちを消していった主人公ですが、死んだ母との過去の会話や、飼い猫のキャベツとのコミュニケーションによって、「ただ生きることに意味は無い。どう生きるかに意味がある」と気付きます。

“死ぬまでにしたい10のこと”の代わりに、“あなた(主人公)の素敵どころ”を10個書き残した母の愛。主人公が生きるために猫を消せばいいと伝えてくれた飼い猫の愛。この本は沢山の愛と感動で溢れています。

「この世界から猫を消しましょう」こう悪魔が言ったシーンはとても印象に残っています。この世界から大切な“何か”を消すことで一日だけ命を得ることが出来たら、あなたはどのような選択をしますか？

深坂 日向子（薬学科1年）



家族や恩師、友達の大切さを  
改めて感じることができるころ温まる本です

『手のひらの音符』  
藤岡陽子 著（新潮文庫）

『手のひらの音符』と言われると最初に思うのは音楽に関わる本かなと思います。けれどこの本はデザイナーである水樹の物語です。

水樹の職場が服飾業から撤退することになり困っている時、高校時代の友達から恩師の入院を知らせる電話が来ます。お見舞いに行き恩師と再会し、昔の様々な出来事を思い出します。

そこで「家族」についてや、音信不通になった幼馴染の三兄弟のことを改めて考えることになります。幼馴染の信也の家はシングルマザーのため水樹の家にいることが多く、本当の兄弟のように育ちました。そのなかで様々な出来事が起こり、時に慰め、時に慰めてもらい支えあっていました。信也とは、水樹の進学を機に連絡が取れなくなっていました。恩師が預かっていた手紙を頼りに信也と再会し、新しい就職についても決心することができます。

家族の大切さや周りの人のありがたさを改めて感じる  
ことのできる心温まる本です。

福本 春花（国際経済学科1年）



人に心を開くことをためらうようになっていませんか？  
そんな時に自分の考え方や行動を  
変えさせてくれた本がこれです

## 『君の臍臓をたべたい』

住野よる 著（双葉社）

歳をとるにつれて人と関わることを避けるようになっていませんか？そんな時、私が出会った本は『君の臍臓をたべたい』という本です。

人に心を開かずに1人での主人公と、同じクラスの誰とでも仲の良い性格のヒロイン桜良の間で起こる話です。対照的な性格の2人は普通なら関わり合えないが、偶然起こった出来事で主人公が桜良の秘密を知ったことにより物語が始まります。実は桜良は病気で寿命が短いのです。このことを知っているのは家族と主人公だけです。だから、桜良は死ぬまでにしたいことを主人公としていくのです。

はじめはお互いにただのクラスメイトの関係でしたが、時間が経つにつれて、思い出も増えていきます。そして、主人公の桜良に対する気持ちが変わっていくのです。しかし、最後の最後に思いもよらないことが起こりました。ぜひ読んでみてください。

脇谷 梨加（人間文化学科1年）

## 推薦図書リスト

- 『青くて痛くて脆い』住野よる (KADOKAWA, 2018 年)
- 『あなたをずっとあいしてる』宮西たつや作絵(ポプラ社, 2015 年)
- 『今やる人になる 40 の習慣』林修 (宝島社, 2015 年)
- 『オール1の落ちこぼれ、教師になる』宮本延春 (角川書店, 2009 年)
- 『思い出あずかります』吉野万理子 (新潮社, 2013 年)
- 『会話のしくじり：失敗から学ぶ「反面教師の会話学」』  
梶原しげる (SBクリエイティブ, 2016 年)
- 『顔ニモクス：どんな「見た目」でも幸せになれることを証明した9人の物語』  
水野敬也 (文響社, 2017 年)
- 『「香り」の科学：匂いの正体からその効能まで』平山令明 (講談社, 2017 年)
- 『神の子どもたちはみな踊る』村上春樹 (新潮社, 2002 年)
- 『カワル』森絵都 (文藝春秋, 2007 年)
- 『キケン：成南電気工科大学機械制御研究部』有川浩 (KADOKAWA, 2016 年)
- 『キッチン』吉本ばなな (新潮社, 2002 年)
- 『君の臍臓をたべたい』住野よる (双葉社, 2015 年)
- 『桐島、部活やめるってよ』朝井リョウ (集英社, 2012 年)
- 『暗いところで待ち合わせ』乙一 (幻冬舎, 2002 年)
- 『珈琲店ルーラの事件簿：また会えたなら、あなたの淹れた珈琲を』  
岡崎琢磨 (宝島社, 2012 年)
- 『三匹のおっさん』有川浩 (講談社, 2015 年)
- 『自分を「やる気」にさせる!最強の心理テクニック：心に“やる気のがりん”を注ぎ込もう!』  
内藤誼人 (ばる出版, 2017 年)
- 『新訳「ドラえもん」』藤子・F・不二雄漫画・原作；佐々木宏文 (小学館, 2014 年)
- 『水族館ガール[1]』木宮条太郎 (実業之日本社, 2014 年)

- 『世界一深い100のQ：いかなる状況でも本質をつかむ思考力養成講座』  
ロジック・ネスリ, ジェーン・ライ・ホバソン; 吉田良子訳(ダイヤモンド社, 2018年)
- 『世界から猫が消えたなら』川村元気(マガジンスハウス, 2012年)
- 『世界史を変えた13の病』ジェニファー・ライト; 鈴木涼子訳(原書房, 2018年)
- 『センスは知識からはじまる』水野学(朝日新聞出版, 2014年)
- 『ゾンビ・パラサイト: ホストを操る寄生生物たち』小澤祥司(岩波書店, 2016年)
- 『大学でいかに学ぶか』増田四郎(講談社, 1983年)
- 『大恋愛: 僕を忘れる君と』大石静; 高橋和昭(扶桑社, 2018年)上・下巻
- 『「脱」戦後のすすめ』佐伯啓思(中央公論新社, 2017年)
- 『ダレン・シャン: 奇怪なサカス』ダレン・シャン; 橋本恵訳(小学館, 2001年)
- 『つながる図書館: コミュニティの核をめざす試み』猪谷千香(筑摩書房, 2014年)
- 『ツルがうつになりまして。』細川貂々(幻冬舎, 2009年)
- 『手のひらの音符』藤岡陽子(新潮社, 2016年)
- 『東京すみっこごはん』成田名璃子(光文社, 2015年)
- 『透明人間になる方法: スーパーテクノロジーに挑む』白石拓(PHP研究所, 2012年)
- 『図書館戦争』有川浩(メディアワークス, 2006年)
- 『なくなりそうな世界のことば』吉岡乾作; 西淑絵(創元社, 2017年)
- 『日本国紀』百田尚樹(幻冬舎, 2018年)
- 『80点ロック: 涙があふれて心が温かくなる話』  
ニッポン放送『上柳昌彦のお早う GoodDay!』編(ニッポン放送, 扶桑社(発売), 2008年)
- 『ハリウッドスターと謎のプリンス』J.K. ローリング; 松岡佑子訳(静山社, 2006年)上・下巻
- 『羊と鋼の森』宮下奈都(文藝春秋, 2015年)
- 『不機嫌は罪である』齋藤孝(KADOKAWA, 2018年)
- 『星の王子さま』アントワーヌ・サンテグジュペリ; 内藤濯訳(岩波書店, 1998年)
- 『骨の学校: ぼくらの骨格標本のつくり方』盛口満, 安田守(木魂社, 2001年)
- 『村上海賊の娘 上・下』和田竜(新潮社, 2013年)上・下巻

『目覚めよ、薬剤師たち! : 地域医療を支える薬剤師の使命』

鶴蒔靖夫(IN 通信社, 2013 年)

『ラヴクラフト全集<2>』H・P・ラヴクラフト; 宇野利泰訳(東京創元社, 1984 年)

『流星の絆』東野圭吾(講談社, 2011 年)

『歴女美人探偵アルキメデス: 大河伝説殺人紀行』鯨統一郎(実業之日本社, 2017 年)

『老人と海』ハミングウェイ; 福田恒存訳(新潮社, 2003 年)

『わけあって絶滅しました。: 世界一おもしろい絶滅したいきもの図鑑』

丸山貴史(ダイヤモンド社, 2018 年)



新入生にすすめる 50 冊の本 2019

2019 年 4 月 1 日発行

編集・発行

福山大学図書館運営委員会図書館企画部会

〒729-0292

広島県福山市学園町 1 番地三蔵

福山大学附属図書館



